

第1学年国語科学習指導案

1、単元名

かくれんぼ くらべ

教材：『うみの かくれんぼ』（光村図書 一上）

2、単元の目標

（1）国語科としての目標

- 「かくれる」「かくす」「変身する」という語句の意味の違いがわかる。
- 言葉に注目をし、自分たちがしたかくれんぼと比べながら、海の生き物たちの隠れ方の違いをかんがえながら読むことができる。
- 動作化を伴いながら、うみの生き物たちがどのようにかくれているのかについて、読むことを楽しんでんでいる。

（2）汎用的スキル

- 用いられている表現の違いから、行動の差異に注目をし、よりふさわしい表現を考えることができる。（批判的思考力）

（3）態度・価値

- 自分の行為について、学習した言葉を通して考えようとすることができる。（好奇心・探究心）

3、児童の実態

説明的文章は、一学期に『すずめの くらし（教育出版1上）』を学習している。このときは、文の役割について中心的に学んだ。『といかけのぶん』『こたえのぶん』『せつめいのぶん』という言葉や、共通の学習用語とし、教材文に書かれていることを読み取っていった。ここで学んだ学習用語は、本単元でも用いている。

日常から、絵本など読書に親しみのある子どもたちである。図鑑などに興味をもっている児童もいるが、文字を読むというよりも、図や写真を見て楽しんでいるようである。『すずめの くらし』の内容を確かめた際には、文に書かれていることと、写真からわかることが混在していた。この教材文自体が、文と写真を合わせて読むことを前提としているところもあるので、致し方ない面もあった。

低学年児童にとって、読み取ったことを動作化して表現することは、少ない語彙を補うことができる点で有効である。児童自身が、動作化をすることで、自分が使った言葉と言いたかったこととの差異に気が付けることもある。

今回は実際にかくれんぼをし、「かくれる」という行為と学習が結びつきやすいため、そのときのことを想起した動作化が期待できると考えている。ただ、本学級の子どもたちは、動作化をすると、「動作」に意識が向きすぎるあまり、もとの記述からはなれてしまいがちなところもある。瞬発的な反応を生かしつつ、叙述にもどるような声掛けが必要である。

4、単元について

①教科から見た特性

海にすむ「はまぐり」「たこ」「もくずしよい」という生き物を材として、それぞれの隠れ方を同じ文型を用いて説明している文章であり、1年生の説明的文章の特徴を有している。また、文章と合わせた写真が多く用いられており、児童の知識や体験の少なさを補っている。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

生き物の隠れ方を説明している文章は、同じ文型ではあるものの、最後の文末に違いがある。「はまぐり」の場合は、「かくれます」である。「たこ」の説明では「かくします」という言葉が用いられており、「もくずしよい」は「へんしんするのです」であるそれらの言葉の違いに着目することで、批判的思考力や好奇心・探究心を育成する学習を展開していくことができる。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全7時間 本時4／7時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・かくれんぼ大会を行い、「かくれる」という行為を、文で表現をする。	○問題解決力	○普段は意識をしていない自身の行動について改めて考える場の設定。
第2次 (4時間)	・教材文を、第一次での経験や、動作化などを通して読み深めていく。	○批判的思考力	○動作化という差異の出る行為を通して、自分の理解が十分であるかどうかを振り返る場の設定。
第3次 (2時間)	・改めてかくれんぼ大会を行い、これまでの学習を思い出して、「かくれる」という行為を文で表現する。	○好奇心・探究心	○これまでの学習を整理し、それを活かした活動の設定。

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・教材文を自分たちの体験を思い返したり、動作化をしたりして読み、書かれていることを理解することができる。
- ・「かくれる」と「かくす」の違いを、考えることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 10分	○前時の振り返りをし、本時のめあてを確かめる。 たこのかくれかたをまねしてみよう。 ○「たこ」の部分を音読し、かんたんな感想を交流する。 ・「色が変わえられるなんてすごい」 ・「たこを食べたことがあるよ」 ・「色が変わえられるのに、どうやってつかまえるのかな」	◇最初は自由な感想を交流させるようにする。(好奇心・探究心) ◇子どもの自由な感想と、叙述にある事実とを整理しながら板書をしていく。(可視化ツールの用意：批判的思考力)
展開 25分	○「かくれる」と「かくす」の違いを考える。 ・「かくれるは、自分でかくれる。かくすは、何かでかくす」 ・「かくすは、『を』がつく」 ・「かくすは、なにか、大切なものを見えなくするときに使う」 ○動作化をしながら、書かれていることを理解する。 ・じっと動かない。 ・身振りなどで、色が変わっていく様子を表現する。 ・身の回りにあるものをつかって、自分の体が周りから見えないようにする。	◇子どもの言葉や動作などを適宜板書したり、問い直しをしたりして、違いを考えることができるようにする。(他者との学び合いの設定：批判的思考力) ◆二つの表現の違いについて考えている(活動の様子・学習感想) ◇「正解」を示させるのではなく、様々な児童の動作化の良さを共有させ、よりふさわしい動作化を求めていくように、何度も挑戦することのできる場を設ける。また、自身の動作化の意図を言語化させるようにする。(他者との学び合いの設定：批判的思考力) ◆教材文に書かれていることを理解することができる(活動の様子・学習感想など)
結末 10分	○学習感想を書く。 ・たこのかくれかたをじっさいにやるのは、むずかしかった。たこみたいに、自分の色をかえることができないから。だから、下敷きをつかって、自分をかくしてみました。 ・たこは、自分の色をかえることができてすごい。わたしよりも、かくれるのが上手だと思う。 ・かくれるとかくすのちがいがわかりました。かくれるは、自分でかくれるで、かくすは、宝物をかくすです。	

●記録映像 無